

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年6月28日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670900218
法人名	社会福祉法人 大一会
事業所名	グループホーム 鈴蘭
所在地	鹿児島県伊佐市大口宮人463番地30 (電話) 0995-23-0139
自己評価作成日	令和3年12月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和4年6月17日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

おひとり、おひとりが家庭的な雰囲気の中で暮らして頂けるように心がけています。事業所は2ユニットあり、その特性を活かし、利用者の方が、他者との会話を通してつながりを感じる事が出来るように配慮している。そこでは、利用者同士はもちろん、スタッフ、ご家族、地域の方々とも交流の機会が持てるように、誕生会や行事の際に、集える場として活用している。

居室については利用者の方の暮らしやすさと、馴染みなもの、大切なものを中心に設えを行ない、安全だけでなくその人がほっと安心できる空間を提供し、くつろぎと居心地の良さを提供している。

幅広い年齢層で構成されたスタッフは、「援助の概念：援助とは苦しみをやわらげ、軽くし、なくすることである」という共通概念を基に対人援助の専門職として教育しており、常に認知症の人の援助において、その人の不安や孤独、苦しみの体験に意識を向けた援助が実践出来るようにしている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・理念は玄関などに掲示し、各ユニットごとに理念が実践につながるように努めている。

・コロナ禍で地域の行事が中止になり、感染対策ができて美容室や理髪店に出かけている。近隣に買い物に行く途中に出会う人と挨拶をしている。認知症サポーター養成講座を法人で開催しており、地域の小学校・行政・住民の参加があり、地域貢献への取り組みも行っている。

・コロナ禍のなか、田の神様の水替えをしたり、近隣を散歩して外気・日光浴をしたり、職員とドライブに行き車窓から見慣れた風景等を楽しんでいる。医療機関受診時に家族と会ったりしながら馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。

・職員は定期的に勉強会を開催し、コミュニケーションや関係性を大事にして、聴くことの大切さを重視し、職員全員でトレーニングし取り組んでいる。

・消防署の協力のもと年2回の防災訓練を行っている。災害時の緊急連絡網や避難経路・火災報知器・防災設備の点検を確認している。消火器を使用する訓練も行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	開設当初から法人理念・事業所理念を基本に支援を行っている。朝礼、申し送りでは理念の復唱を行い、支援につなげている。	玄関・事務所に法人理念・事業所の理念を掲示し、ホールにはユニットの理念を掲示している。毎月の会議で話し合いを行い、朝礼時や申し送り時に唱和し、理念を共有しながら日々のケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	これまで、地域での行事（運動会・文化祭など）準備段階から手伝わせて頂いていたが、全て行事が中止になり、外部の参加が出来ない年になった。感染対策を取られている美容室・理髪店に一人ずつ出かけ、そこへの行き来の車窓の風景でつながる気持ちを持ち続けて頂いた。	コロナ禍で地域の行事が中止になった。感染対策ができて美容室や理髪店に出かけている。近隣に買い物に行く途中に出会う人と挨拶をしている。認知症サポーター養成講座を法人で開催しており、地域の小学校・行政・住民の参加があり、地域貢献への取り組みも行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	認知症の人の援助について、内部研修や外部研修を通して学んでいる。また認知症サポーター養成講座を地域の小学校や行政（市役所）職員・地域住民へ開催し、理解の促進と共に考える機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、入居者の代表として参加をしていただき、会議の中で意見を頂いている。また事業所課題だけでなく、地域の課題等についても共に考える機会としている。今年はコロナの影響で対面での開催頻度が少なかったが、書面にて報告するなどし、事業所の取り組みを見える化を図った。	運営推進会議は書面を含めて定期的に開催している。コロナ禍での事業所の活動状況や利用者の状況等を書面にて報告し、事業所の課題や地域の課題を話し合っている。家族からコロナ禍ではあるが面会の希望があり、リモート等で取り組みを行い、工夫しサービス向上に努めている。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議や地域密着型サービス連絡会にて状況を報告し、課題があれば共に考えるという姿勢で連携を密に図れている。制度や市区に関する情報を受取る事や、現場実践での方向など共に、認知症の人の暮らしを中心とした話題を共有できる関係が出来ている。	行政の窓口に行き必要に応じて相談や質問をしている。来訪しての情報交換等、連携が取れている。研修の案内連絡もある。法人主催の認知症サポーター養成講座を開催し参加されることもある。運営推進会議の参加者でもあり、連携ができています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	夜間帯は、防犯上の観点から、戸締りを行っているが、利用者の方は、いつでも自由に過ごすことが出来る。身体拘束や権利擁護については常日頃から、利用者の体験がどうかという事を念頭に実践しており、職員は日頃のケアにおいても心掛けている。	身体拘束廃止委員会が中心で法人で年度初めに話し合いを行いそれを基に事業所で毎月、具体的に事例をあげて意見を出し合っている。日々のかかわりの中で言葉かけやスピーチロックについて等、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。夜間は施錠しているが日中は施錠していない。自由に出入りできるように開放している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、高齢者虐待防止等について学ぶ機会を持つことと、普段のかわりの中で、不適切な言動などがないか常に注意を払っている。また同時に職員の悩みや疑問に感じている事など、なんでも話しやすい雰囲気を作りたいし、職員の援助にも努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	内部及び外部の研修を受けている。援助実践の中で、多様な視点を獲得するため、市町村へ報告相談し適切な援助が提供できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者・家族の方に契約する際、書類等を提示し、詳細に説明を行い理解・承認をしてもらっている。不明な点や疑問点がある際は都度対応し、説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議で利用者代表や家族の代表者を決めて参加して頂き意見を述べる機会を設けている。感染症蔓延防止の為、面会が出来なかったため、電話等で意見や要望を受け、年に1回の利用者満足度アンケートの結果も運営に反映させている。	利用者の声を重視して日常の会話を記録し思いを把握している。家族は毎月、便りや受診後の報告時や必要時に意見や要望を聞いている。運営推進会議にも代表が参加している。現在年1回利用者満足度アンケート調査を行い結果等をまとめて報告し意見を反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	リーダー会議や職員会議を2ユニット合同で開催し、意見や提案を聞く機会を常に設けている。年に2回の賞与時、部下評価(360度評価)、年に1回の職員アンケートを実施し、職員の意見を聞く機会も設けている。	管理者は職員の意見を職員会議等で聞いている。年1回職員アンケートを実施している。有給休暇以外にも特別休暇が取得できるように、勤務希望に配慮した働きやすい体制である。コミュニケーションスキルを高めるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課の導入により職員個人が期間内の自己評価を行い、上司の3次評価を行うことで職員も向上心を持って業務に努めている。勤務状況や給与体制にも配慮されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	感染症拡大時期は内部研修(オンライン研修)を計画的に行い勉強会をしている。今年度は外部研修(オンライン研修)にも少しずつ参加して頂き、業務の一環として各自学んでいる。職員だけでなくパート職員にも研修の参加を呼びかけ質の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡会、医療介護連携会議に参加し、同業者との交流や連携を図っていたが、今年度は中止が多く、資料等での理解、また、地域のサービス事業所や行政機関と電話での連携も図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に話し合いを行い、本人や家族の方に様子をお聞きし、顔見知りの関係作りから始め、安心して頂く。得た情報を基に職員間でミーティングを行ない、要望や注意事項についても把握するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の段階で本人・家族の方からの不安や苦しみなどに耳を傾ける。その言葉や情報を基にミーティングを行い共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症の人は、その時々で、不安や苦しみを抱えることが多くある。援助のタイミングを見極めるために、常にその人の苦しみの体験に意識を向けることが大切であると考えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で職員だけが支援するのではなくご利用者の方々に洗濯物や食事のお手伝いをして頂き職員・ご利用者と一緒に触れ合いながら支え合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調不良時だけでなく、何気ない日常の様子を家族へ伝えることで、家族としての想いや願いなどを聞き、共に援助の方向性を決め実践に繋げている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	今年の前半は、外出が出来ない状況であり、思い出話や収束してからの希望などの話を行っていたが、12月にはいつからようやく外出が出来、しばらくぶりの再会を喜んで頂いた。	コロナ禍のなか、田の神様の水替えをしたり、近隣を散歩して外気・日光浴をしたり、職員とドライブに行って車窓から見慣れた風景等を楽しんでいる。医療機関受診時に家族と会ったりしながら馴染みの関係が途切れないうよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホール(共有の場所)でお茶を飲まれたり、和室で洗濯物をたたまれたりしながら会話をされている。又、入居間もない方、お一人で過ごしがちな方などは職員が間に入ったりし、孤立しない様に努めた。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族とのこれまでの関係性を大切にしながら、希望される時は相談や援助に努めた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の方とコミュニケーションを図りその人の思いや要望などを聞き取り把握に努め出来るだけ応えられるようにしている。ご自分の思いを伝えられない利用者については、家族からの情報を頂き、職員の意見を交えながら検討している。	日々の支援中に聞いた会話を職員間で話し合い、利用者の思いや意向の把握に努めている。困難な場合は利用開始時のアセスメントや家族からの情報を基に本人本位の支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や書類などに記載されている情報を職員で把握しプライバシーに配慮しながらユニット会議を行い検討している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の心身状態の変化にいち早く気付けるよう、職員間で情報交換をミーティングやユニット会議で情報交換を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見に耳を傾け情報を得る。リーダーや担当職員を中心にその情報の中から課題を検討し職員同士でユニット会議で話し合いを行っている。またメンバー間で介助方法や関わり方について不明な点や、不安な時には、その都度ミーティング等を開催し、話合っている。	本人や家族からの意見・希望をもとに担当職員と共に担当者会議で話し合いをして介護計画を作成している。見直しは3ヶ月毎に行っている。状態に応じて適宜見直しを行い現状に即した計画になっている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身近で支える職員が現在の状況やケアでの気づきを具体的に記録を行っている。情報を共有しながら実践に活かしてはいるが、介護計画の見直しまでには至っていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 ケア、家族の状況、心身の向上されるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族のニーズに対し、早急に対応出来る様している。又、その後の報告も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者一人、一人の地域・集落での馴染みの関係を把握し、外出が出来るようになった際は実現する。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の同意の基、月に一度の主治医の往診を実施している。又必要に応じて主治医と連携を図りながら適切な指示や他科受診を受けている。	かかりつけ医は利用者・家族の希望を聞いて支援している。主治医からの毎月の往診がある。他科受診は職員が付き添い、医療機関で家族と待ち合わせて医師から直接聞いてもらうこともある。主治医・医療機関と連携を取りながら適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>毎週1回の訪問時は、気になる点や、相談事を行う。他科受診が必要な際など主治医へ連絡して頂き指示を頂いている。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院した際は、面会が出来ない期間は電話や訪問看護来所時主治医の往診時に病状の経過や状態を聞き把握している。退院後は訪問看護師や主治医に連絡を行い連携を図っている。</p>			
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>契約の段階で事業者が対応できる最大限のケアを御家族に説明し理解して頂いている。また、医療機関や家族と随時連携を図っている。</p>	<p>利用開始時に本人・家族に事業所として出来ることについての説明をして契約している。指針やマニュアルがある。状態の変化に応じて本人・家族・主治医・併設施設の看護師等と話し合いを行いながらチームで看取りの支援やデスカンファレンスも行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の対応については適切な対応が出来る様、内部研修などを通して学んでいる。急変時の対応には、主治医・併設施設の看護師とも連携を図っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年間を通して2回総合防災訓練を実施し、消防署の方々から適切な指導を受けながら訓練を行っている。様々な状況での想定を考えて行っている。又、災害時の食材や備品も備えている。緊急連絡網についても、防災訓練時に行い、意識を持てるよう努めている。</p>	<p>消防署の協力のもと年2回の防災訓練を行っている。災害時の緊急連絡網や避難経路・火災報知器・防災設備の点検を確認している。消火器を使用しての訓練も行っている。消防署から評価を得ている。併設施設との協力体制もできている。備蓄は水・米・乾パン・インスタント食品・缶詰類などがある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時や更衣時等プライバシーに配慮した介助を行っている。「一人一人の人格の尊重・プライバシーの確保」については職員全体で深く話し合い学び合う必要がある。	利用者一人ひとりのプライバシー確保を図りながら、トイレ誘導や更衣時は声掛けに配慮している。待つ勇気、自己決定できること等を職員で話し合い、対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや願いを傾聴のスキルを基に把握し、援助実践している。又ご本人の思いや願いが表現出来るようなコミュニケーションを実践している。意思表示が困難な方に関しては、表情の反応や御家族の意見を聴く様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いや願いを基にして、その方のペースに合わせ、援助実践している。又その日の状況をみながら、柔軟な対応によりより個別性を重視した対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	その日に着る衣類も本人に決めて頂いている。上手に伝えられない方やお任せの方については、本人の好みや色等を把握しながら行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備・片付けは基本的に職員が行っている。その時の状況を見て、お盆拭きをして頂いたりしている。又好みの食べ物のご希望にも応える様にしている。献立については配膳時にお伝えしている。</p>	<p>食事を楽しめるように、季節の食材や栄養バランスなどに工夫している。食事後の口腔ケアにも力を入れている。畑で採れた野菜等を見て献立を一緒に考えたりお盆を拭いたり味見等をしている。個々に応じた食事形態であるが今日の献立名を配膳時に伝えている。行事食や誕生日食を工夫して食欲が出るように支援している。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者個人に合わせた食事量や形態を把握し、摂って頂いた摂取量や水分量をチェック表に記録している。体調・体重の増減等にも注意し、主治医に相談して指示のもとに調整を行う事もある。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食事、就寝前に声かけし口腔ケア(舌ブラシ・スポンジ等)を実施している。義歯を装着されている方は、洗剤・保湿液を使用し、清潔を保っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>プライバシーに配慮しながら、利用者の一日の排泄状況を把握し尿取りパット等での排泄に頼らず時間帯をみてトイレ誘導を行い、排泄を促している。</p>	<p>利用者の排泄パターンを把握ししぐさや動きなどから、さりげなくトイレ誘導している。オムツ量の減少につながっている。羞恥心や不安への配慮も心がけて、排泄の自立支援を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食事メニューに繊維質の多い食品を含め、日々の水分摂取量にも気を配り、自然排便を促す様努めている。排便チェックを行い、職員間で排便状況を把握し、記録を行っている。便秘がちな方についてはこまめな水分をとって頂けるように声掛けを行い、居室で過ごされる方には飲み物を提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は限定せず、本人の希望に添って行うようにしている。記録を確認し、入浴されない期間が長くないようにしている。	入浴日を決めずにいつでも入浴できるようにしている。2日に1回のペースで入浴している。入浴を嫌がる利用者には足浴や手浴等も行っている。入浴剤を使ったり同性介助を行ったりしている。記録を確認しながら入浴されない期間が長くなりそうときは声掛けを工夫しながら入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり好きな時間に休息・余暇活動をしている。本人の状況を見て昼寝をしたりゆっくり過ごして頂いている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳やケース記録に記載し職員同士で連携を図っている。内服の変更の際は理由等を確認し、職員全員で把握しておく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>一人ひとりの趣味や特技を把握しできる範囲で気分転換しながら楽しんで頂いている中で、感染症蔓延防止の制限等があり、これまでとおりとはいかない中、ちり紙折や洗濯物たたみ、食材の下ごしらえを行われている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>天気の良い日には施設付近を散歩して、気分転換を図って頂いている。</p>	<p>コロナ禍であるが外気浴をしながらお茶のみをしたり、近隣の散歩に出かけている。数名で花見に出かけ車窓から季節を感じたり、懐かしい場所へ出かけて思い出話を傾聴したりしている。畑に行つて職員と一緒にする利用者もいる。短時間でも戸外に出られる機会を作るように支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的には利用者の金銭管理は事業所で預かり管理している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人からの電話の希望や家族から連絡があった際は、ゆっくり会話を楽しんで頂いている。ライン等のテレビ電話も活用。又、家族から手紙や贈り物が送られてきた際は本人にお渡しし届いたことを家族へ連絡している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールに花を添えたりご利用者同士で共有する場所であるホールやトイレを臭いがこもらない様消臭剤を設置したりこまめに換気している。また、生活の中で季節にあった食事や事業所で作っている畑での採れた野菜などを見て頂き季節感を感じて頂いている。	窓が多く明るい広い空間になっている。感染症対策を行い換気・温度・湿度等にも配慮している。窓も定期的に開閉している。ホールの壁に季節を感じる合同作品の飾り物をして、テレビやソファもあり利用者がゆっくりくつろげる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先の外にベンチを置いたりして天気の良い日にはいつでもご利用者同士でくつろげる空間を取り入れている。また、その一人ひとりにあったホールでの座席配置にも気を配り居心地の良い環境を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の要望に耳を傾け使い慣れた物や馴染みのある物を居室に配置し、その人が居心地良く過ごせるようなお部屋作りを心掛けている。居室に仏壇がある方へは希望があった際には花を入れ替えたり仏様へのお茶を毎朝入れ替えている。	居室の入口にはそれぞれの表札がある。エアコン・ベッド・洗面台が設置されている。自宅で使い慣れている小物も置き、布団・椅子・テレビ・写真・仏壇等は、家族と相談して居心地よく過ごせるよう工夫している。季節の衣替えなども本人と話し合いながら行っている。仏壇へのお茶も毎朝供えている方もいる。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部での歩行については手すりを使用したり歩行器を使っでの歩行を行い自立した生活を送れるよう支援している。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない